

養 氣 軒

ようきけん

『さわやかな笑顔と思いやりの心で、安心、安全な満足される医療をめざします』
そのために、患者さんは言うまでもなく全職員ひとり一人を大切にします。

●ようきけんとは「病む人の病のみならず心をも癒すことの出来るところ」という意味です。

Pick up

看護職の働き方改革 訪問看護ステーション 「さくら登録ナース制度」運用開始

当院の訪問看護ステーション「さくらそう」では、人材の活用を目的に、2021年2月1日より院内の新しい仕組み「さくら登録ナース制度」を作りました。

「さくら登録ナース制度」とは、看護実践能力のある病棟勤務の看護師を訪問看護ステーション兼務として登録し、曜日別、日替わりで勤務する院内の新しい体制です。

この新しい体制の目的として「人員の補完ができる」「訪問看護ステーション・病棟間の双方での情報交換や連携の強化ができる」「病棟看護師は、生活の視点がひろがることで病棟内の退院支援の質の向上へつなげる」「地域全体を見渡せる看護師を育成できる」の4点をあげています。

これらを取り組み、病棟と訪問看護の看看連携を図りながら、利用者の方々が安心して地域で暮らせるよう、看護を提供していきたいと思います。

(看護部長 白石 早苗) 



2021年2月1日
藤岡院長よりの辞令交付式後 院長室にて

Home-visit nursing station "Sakuraso"

歯科診療を紹介します!

外来看護部長 毛利 由加

長崎川棚医療センター 8病棟では、多くの患者さんが長期間療養生活を送られています。入院患者さんは、長い入院生活の中で歯科診療、口腔内ケアが疎遠になりがちです。

このような患者さんの健康な口腔環境維持のため、2020年7月より、片淵先生の後任として尾崎歯科 尾崎俊隆先生に診療していただいています。

昨年7月には、8病棟の全患者さんの歯科検診を行いました。患者さんから「口の中を診てもらって、きれいになってよかった」等の喜びの声をいただきました。

現在は口腔内にトラブルを抱えた患者さんの治療、口腔ケアの方法の検討など、口腔環境を健康に保つため、尾崎先生、歯科衛生士さん、病棟スタッフとで密な連携をとりながら日々ケアをさせていただいています。



中尾 華奈子 歯科衛生士

尾崎 俊隆 先生

皆さん、こんにちは!

2020年7月1日より8病棟の歯科診療援助を行っています尾崎と申します。白石看護部長はじめ多くのスタッフの方々にサポートをいただきながら毎週水曜日の午後は緊張の連続です。微力ではありますがよろしくお願い申し上げます。

感染対策の中での退院支援・調整の取り組みについて

地域医療連携係長 富永 文子

地域医療連携室では、患者さんが安心して在宅や施設、病院に退院または転院できるよう調整を行っています。現在、感染予防のため病棟への入棟が制限され、退院に向けた調整の方法も以前とは変わってきました。ご家族をはじめ、ケアマネージャーや施設職員など外部担当者の方々は、患者さんとの面談や状態把握が難しい状況にあります。

そのため、地域医療連携室スタッフは、病棟からの情報をもとに患者さん・ご家族の意向をより詳細に確認し、担当者の方との連携を強化し退院に向けて調整を行っています。

コロナ禍でも患者さんにとって安全・安心な退院に繋がるよう頑張っていきたいと思います。



『社会人基礎力』の育成について

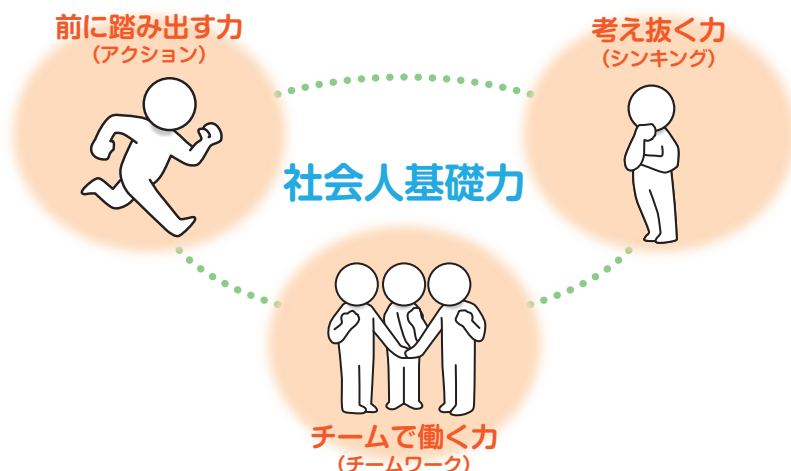
教育担当部長 今里 純子

近年、若者を取り巻く環境変化に伴い「職場で多様な人々と仕事をしていくための基礎的な力」を育成していくことが必要とされる時代を迎えています。

看護の質を向上させ、安心・安全な医療を提供するためにも、基礎学力や専門知識だけでなく『社会人基礎力』の向上を意識的に組み込んだ教育が求められています。

皆様もご存じかもしれませんが、『社会人基礎力』とは、経済産業省より2006年に発表されたもので、3つの能力と12の要素で構成され、3つの能力とは【前に踏み出す力】【考え抜く力】【チームで働く力】になります。

当院でも、新人看護師の社会人基礎力の育成に取り組んでいます。社会人基礎力を3か月毎に自己評価し、



変化をみて、看護師長が面談を行っています。そして、自己の課題についてどう取り組んでいくのか、自ら気づき、自ら考え目標を立て、成長できるよう支援しています。

社会人基礎力を身につけることによって、自律した看護師に育ってくれることを期待しております。

クリスマスコンサートについて

総合診療内科医師 川原 知瑛子、松本 学

昨年12月、入院中の患者さんたちに療養生活を少しでも楽しんでいただきたいという思いから、各病棟ラウンジにて計5回、院内スタッフによるクリスマスコンサートを開催しました。

入念な感染対策を行ったうえで、密にならないように意識しながら、バイオリン・電子ピアノによる生演奏を行いました。



「赤鼻のトナカイ」、滝廉太郎さんの「花」など数曲でしたが、会場の皆さんにも鈴や鳴子でご参加いただきました。

アンコールのお声もいただくことができ、スタッフも一緒に楽しむことができたと思います。

今後も折に触れてこのようなイベントを企画できればと考えています。



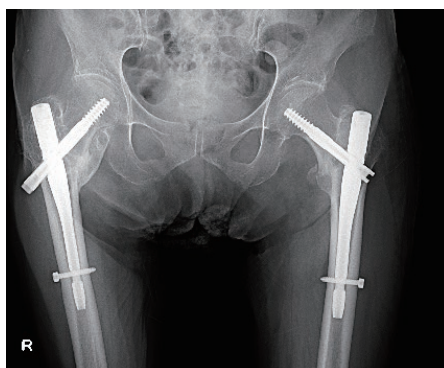
診療科紹介(整形外科)

整形外科医長 藤本 勝也

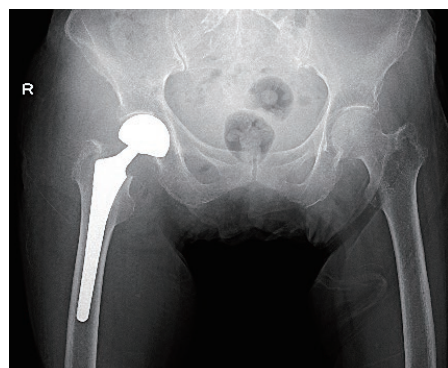
整形外科とは人体の運動器官の病気や外傷を取り扱う診療科です。

頭顔と内臓以外の部分の骨、関節、靱帯、筋肉を治療しますので、その診療範囲は非常に多岐にわたります。また、単に病気や怪我を治すだけでなく、運動機能を回復させることも目的とした治療を行います。

外来患者は1日平均約22人、入院患者は1日平均約15人です。入院治療は骨折等の外傷性疾患が主です。近年はクリティカルパスを導入し、患者さんに治療の経過がわかるように努めています。



《大腿骨頸部骨折の骨接合術後》



《人工骨頭挿入術後》

整形外科は、夜間・休日等の時間外での救急患者が多いのですが、時間外でも可能な限り対応しておりますので、必要な場合は遠慮なく電話でご連絡いただき受診されてください。

部署紹介(診療録管理室)

診療情報管理士 谷口 実奈美

診療録管理室では、DPC包括支払い制度の導入に伴い、厚生労働省へ提出する各種データの作成や、適切な診断群分類コーディングの決定作業などを主に行っています。

また、もう一つの大きな役割として、診療記録(カルテ)の管理や疾病等の各種統計資料を作成しています。その他にも、診療に関わった文書の点検・保管業務を行っています。

患者さんと直接お会いする機会のない部署ですが、診療録管理や診療データ統計を通して院内の医療の質の向上に取り組んでいます。



編集後記

副理学療法士長 峰松 俊介

2020年度も終わりつつあります。コロナ感染はなかなか終わりの見えない状況ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。仕事もプライベートも常にコロナを意識した行動をとらざるをえず、あらゆるメディアがコロナ関連ニュースばかりで、もううんざりといったところでしょうか。

さて、先日、体操の内村航平選手のインタビューがありました。内容は、このコロナ禍のなか東京五輪の開催

にあたり、「“できない”じゃなくて“どうやったらできるか”をみんなで考えて、どうにかできるように、そういう方向に考えを変えてほしい」というものでした。

当院もコロナ対策はじめ、課題が山積しています。内村航平選手のインタビューにありましたように、自分たちも“できない”理由を探すのではなく、“どうやったらできるか”を一所懸命に精一杯考え、行動する。このことが今一番必要とされていると思います。